

環境に係る情報協議会 国営造成土地改良施設整備事業 フモンケ地区

1. 事業の概要

◇事業の目的

本地区の農業用排水路は、昭和41年から昭和48年にかけて直轄明渠排水事業フモンケ地区により整備されたが、整備後約40年が経過していることから、老朽化が著しく、護岸の欠損や法面崩壊により、排水機能が低下し農地の湛水被害が生じている状況にある。

このため、排水路2条を緊急に改修し、施設機能を回復させることにより、排水機能の安定的な確保を図り、農業経営の安定に資する。

◇受益面積 1,280ha

◇主要工事計画(案) 排水路 2条 L=6.5km

2. 地域環境の現状と課題

《現状》

◇大都市近辺という立地条件を有する一方で、河川、森林、湿性植生やそこに住む多種多様な動植物が生育・生息する豊かな自然環境にある。
(安平町田園環境整備マスタープランより)

◇市の東部には、湖沼や湿原を有する原野が広がっており、変化に富んだ地形と豊かな自然環境に恵まれている
(苫小牧市田園環境整備マスタープランより)

《課題》

◇排水機能が低下している排水路により排水不良となっている農地も存在していることから、自然環境との調和に配慮しつつ、計画的な農業農村整備事業による更新整備が必要となっている。
(安平町田園環境整備マスタープランより)

◇人と自然との共生を基本に、市民、関係機関、団体、行政が一体となり、自然環境の保全に努める必要がある。
(苫小牧市田園環境整備マスタープランより)

《環境保全の基本的な考え方》

◇安平川及びその支流における親水空間整備、環境に配慮した工法による更新整備の推進。
(安平町田園環境整備マスタープランより)

◇工事の実施にあたり、環境に与える影響の緩和を図るなど環境に配慮する。
(苫小牧市田園環境整備マスタープランより)

3. 事業による環境との調和への配慮

《基本方針》

◇地域の環境保全に対する基本方針を踏まえ、水辺空間など貴重な動植物の生息生育環境の保全に配慮した整備を行う。

《取組内容》

◇水辺の生態系に配慮した排水路整備
水路底部は自然河床とし、魚類の生息環境に配慮する。
また、平水位より上部の法面保護は自然繊維植生シートによる被覆を行うことで在来種の活着を期待する。

◇工事期間中の濁水の流出防止
施工時には沈殿槽を設け、ろ過した後に河川に排水する。